

パパ・ママ子育て知恵袋

第19回は「ちょっといいお話を聞かせる」

電車の中で夫婦と思しき男女が言い争っている。

妻「電話しなさいよ」夫「ダメだ、電車の中だ。駅に着いてからでいい」

妻「間に合わないかもよ。お義父さん意識のあるうちに声を聞かせてあげてよ」

夫「ダメだ、ルールは守らないと」

聞く気はなくとも居合わせた乗客は事情が飲み込めた。夫の父親が危篤状態にあるのだ。押し問答は止み、重たい空気が車内を包んだ。

夫婦の向かい側に座っていた女性が意を決したように立ち上がり、夫に優しく声をかけた。「電話。した方がいいです」

それを聞いた乗客たちも次々に夫婦を見つめて、うなづいている。

男性は電話をかけた。

「お袋、この電話を親父が聞こえるところに置いてくれ！ 親父、親父が一所懸命働いてくれたから、俺たちはひもじい思いをせず、ご飯をお腹いっぱい食べられた。ありがとな！ 俺たちのことは心配しないでいいから！ ホントにホントにありがとう……ありがとう……」

こみあげてくる嗚咽を必死に抑えて、最後の言葉を送る男性。

その言葉が父親に届いていますように と願う空気が車内に流れた。

このお話を小学生にすると、「マナー違反だけど、電車内にいた人たちは、人間として正しい」と言います。「電話しなかったら正しいことをしたことになります。でも、その正しいことは悲しいことです」とも言います。

（そうだな。そうだね）と感心します。

「今日ね、ママの会社でね、こんなことがあったのね。……それでね、ママは『ああ、やさしいなあ』って心があったかくなったよ」

なんでもいいのです。

ちょっといいお話を子供に聞かせてあげてください。

関心ないような顔をしていても、子供は聞いています。

そして、**ちょっといいお話を心に貯金していきます。**